

海外日本人学校との共同授業

～ Cu-SeeMe・チャット・電子掲示板を利用して～

梅 津 健 志

Takeshi Umezu

Takeshi.Umezu@kiu.ne.jp

教室にインターネット回線を敷設することにより、子ども達が自由にインターネットを利用することができるようになった。

それは、教室での学習内容をインターネットを通して交換し合うこととなり、教室での学習を深まりと厚みのあるものへ変化させた。

海外で生活する子どもとの共同学習の成立は価値観の相違を共有しあえる学習となった。

1. はじめに

1999年度から3年間、柏市は「先進的教育用ネットワークモデル地域」に指定された。

来年度以降、市内各校はインターネットに順次接続されていくであろう。

インターネットの利用が子ども達の学習を高める、子ども達の学習意欲を高める、という実践が多く報告されている。

その反面、インターネットの影の部分をクリックアップする社会問題が出現してきた。

それだけ、インターネットが日常的なメディアになってきたのであろう。

しかし、インターネットが学校に入ったが、パソコンすら触ったことがないという先生方の比率は依然として高い。

本実践は今まであまりパソコンに触ったことが無かったという教員が、インターネットを利用して学習を展開した実践である。

2. 研究のねらい

インターネットを自然に日常的に利用できる環境整備を行うことにより、子ども達の学習ツールとして定着し、指導者にとっても親しみやすい道具になると考えた。

そこで、試験的に5年生の各教室と職員室にLANを張り、日常的にインターネットを利用できる環境を整えた。

インターネットの特性として双方向性があげられる。

Webからの情報受信だけでなく、情報の受信発信が繰り返

し行える環境も大切である。

そこで、千葉県情報教育センターへの研究協力の一貫として、海外日本人学校との交流を始めた。

5年生5クラスがパース・ジャカルタ・ブエノスアイレス・香港・カイロの各日本人学校と日常的な交流を進めるために、学校ごとに電子掲示板を用意し、子ども達の日常生活での交流を進める環境整備を行った。

3. 実践

ジャカルタ日本人学校との共同授業

< 単元名 >

第5学年社会科日本の農業
「米作り」

(1) 単元のねらい

食生活を支えている農業について、具体的事例を通して調べ、生産活動に従事している人々が生産を高める工夫や努力をしていることを捉えさせる。

また、主食である米のルーツをたどったり、他国の米作りの様子を知ったりすることにより、米を題材にして幅広く社会を捉える目を育てる。

このことを達成するために、インターネットを利用した調べ学習、校内LANを活用した意見交換を取り入れ、子ども達にとって意欲的に取り組める学習とした。

また、海外で生活する日本人の子ども達と米作りを通して交流することにより、日本の米作りの良さや問題点に気づき、それぞれの立場から考え合うことが、学習を活性化しねらいに迫

ると考えて実施した。

(2) 指導目標

身近な米作りの様子を調べることから、米のルーツに関心を持ったり、外国での米作りにも目を向けたりすることができる。

体験したり、調べたりしたことを基にした情報交換を行うことにより、自分の意見を深めたり、見方を変えた考え方ができるようになったり、さらに深く追求しようという姿勢を生み出したりすることができる。

(3) 利用場面

この単元では、次のような場面でインターネットを活用した。

調べ学習の学習場面

日本国内の米作りについての資料収集場面でインターネットを活用した。

図書資料だけでは、新しい資料とは言えない。子ども向けの新しい資料が掲載されているWebを利用して資料収集を行った。

お互いの意見交換の学習場面

調べて内容を電子掲示板に書き込むことにより、データを共有したり、他校の子ども達と意見交換したりする場面で活用した。

特に海外日本人学校の子どもの達との意見交換場として活用が図られた。

共同学習の学習場面

本単元では、米の総合学習を進めているジャカルタ日本人学校との共同授業の場としてインターネットの活用を図った。

それぞれの学校での学習内容を電子掲示板等で交換し合う中でいくつかのテーマに絞られていった。

テーマに基づき、Cu-SeeMeとチャットを併用した共同学習の場を設定した。

以下に指導計画と本時の展開の詳細を示す。

立場や学習内容の違う子ども達同士が、お互いの疑問点を解決し合ったり、共通の問題点について話し合ったりすることができる学習を展開した。

教師のツールとして

日本人学校の先生と共同授業を行う場合でも指導案検討は必要である。

メーリングリストを利用してある程度の構想は立てて行くが、やはり話をしながら組

み立てる部分が出てくる。

安くなったとはいえ、国際電話を利用すると、数分間の通話で数百円の電話代がかかってしまう。

そこで、教師同士の指導案検討にもCu-SeeMeを利用した。

メーリングリストに月日日本時間 時より、kiuリフレクター 番会議室で指導案検討会を行いますというアナウンスを流す。

すると、その時間帯に合わせてメーリングリストに参加している方々が検討会に参加して下さるのである。

ジャカルタ、香港等の日本人学校の先生、柏市教委、千葉県情報教育センターなどの先生方が指導案検討に参加して下さった。

まさしくブレイクストロミングである。

校内で研究授業を行う際と全く同じ感覚で、世界中にいる人々と会議を行い、一つの授業を組み立てていったということは、大きな成果であり、今後大いに取り入れていきたい側面である。

(4)指導計画

指導過程	指導内容
第一次 日本の米作り グループ学習	<p>* 教科書教材「米作りがさかんな庄内平野」を題材に、日本の米作りについて学習をする。</p> <p>* グループごとにテーマを持って調べ学習をする。</p> <p>テーマ・日本の米作り ・生産高について ・品種改良 ・米の種類 ・これからの農業</p>
第二次	* 古代米である「赤米」と「黒米」の紹介

(5) 授業展開 12月9日 3校時(45分)

学 習 内 容	指 導 ・ 援 助 ・ 備 考
<p>1 . 相手校から送られてきた video-mail を見て , 問題の焦点化を図る。 プロジェクター画面を全員で見る。</p> <p>2 . Cu-SeeMe を通して挨拶する。</p> <p>3 . 班ごとの話し合いをする。 話し合いの順番 米の品種について 輸入と自給 米の作り方 農家の様子 田んぼにて</p> <p>・ Cu-SeeMe とチャットを併用して話し合いを進める。</p> <p>・ チャットルームはそれぞれの課題ごとに用意し , 各班ごとに2台のPCからアクセスできるようにする。</p> <p>4 . 学習のお礼を兼ねて合唱の交歓をする</p> <p>・ お互いに挨拶をしておわる。</p>	<p>・ Cu-SeeMe はあらかじめ双方からダイヤルアップしてリフレクターでの接続を確認しておく。</p> <p>・ Cu-SeeMe での話し合い時間は各班で6分程度。 Cu-SeeMe を行っていない時は , チャットで話し合いを進める。</p> <p>・ 基本的な操作については , 子ども達に任せる</p> <p>・ トラブルを防ぐ手だてとして確認したこと。 音声を確保するために , 相手の表情や資料等が確認できた段階で画像を静止画にする。 音声が聞き取りにくかったり , 相手からの反応が遅れた時には , 再度相手に対して質問等をし直すようにする。</p> <p>・ 中原側から 「だいだらぼっちの春」</p> <p>・ ジャカルタ側から 「となりのトトロ」</p>

4 . 実践を終えて

(1)子ども達の感想

- ・ Cu-SeeMe は顔も声も聞こえていて , 飛行機で行ったら何時間もかかるのにすぐに届くなんてすごいなと思いました。

日本とジャカルタはあんなに離れているのに , 間近で話しているみたいでした。

- ・ Cu-SeeMe で聞いたら , ジャカルタでは稲が3ヶ月くらいで取れるようでびっくりしました。
日本ではその倍はかかりません。ジャカルタで早く取れ

るのは、一年中夏だからだ
そうです。あさがおは1週
間で咲くそうです。

- ・ Cu-SeeMeでは社会の赤米の
事やお米について、ジャカ
ルタの人とお話をしまし
た。

Cu-SeeMeで相談したり、勉
強をしたり、ジャカルタの
人とは友達や相談相手で
す。

- ・ ぼくたちの班は輸入と自給
のことで交流しました。チャ
ットルームではぼくたちは
自給の方が良いと言いま
した。Cu-SeeMeでは、ジャ
カルタの人たちは輸入と自
給に分かれていて、輸入と
答えた人の理由は「輸入し
ていないと他の国から文句
を言われるかもしれない」
ということでした。

農薬についてもついている
農薬は洗い流せばよいと考
えているようでした。

もっとやりとりをしてみたい
と思います。

(2) 指導者の感想

インターネットを利用するこ
とにより、ジャカルタと日本と
いう距離がなくなり、大変身近
に感じながら授業を行うことが
できた。

教師同士の指導案検討も
Cu-SeeMeで行うことにより、校
内だけでなく様々な方々に参加
していただき、広く意見を仰ぐ
ことができたことは大変貴重な
経験であった。

しかし、インターネットを十
分に活用した共同授業を行うた
めには、インターネットを利用
してお互いの情報を交換しあい

たいというレベルまで子ども達
の学習を高める必要があること
も痛感した。

安易にインターネットや校内
LANを利用して共同学習をする
ことが、子ども達に力をつける
ことではない。

子ども達の中に、教室の外と
やりとりをしようとする意識が
芽生える事が大切である。

身近にある資料や、実際の体
験を積み上げていく中で、「も
っと幅広く調べたい」「もっと
幅広く意見交換をしたい」とい
う意識が子ども達の中に芽生え
てこなければ、インターネット
を利用しては効果は得られない
であろう。

インターネットの環境を整え
ば整うほど、インターネットの
必然性が子ども達自信に意識で
きる学習展開が必要である。

今回の実践では、半年以上も
の間、それぞれの環境で学習し
てきたものが土台となって共同
学習が行われたことは、大変有
意義であった。

日本人学校に通う子ども達
は、国内だけで生活している子
ども達に比べて国際的感覚があ
る。

同じ事象を見ても、見方考え
方に広さを感じる。

今回の共同学習のテーマとな
った「米の自給と輸入」につい
ても、国内で報道されているこ
とをベースに考えを組み立てた
中原の子ども達と、ジャカルタ
の貧しい部分も見ている子ども
達とでは、明らかに問題意識に
差があり、お互いに考え合える
ことができた。

これは、教室や国内の学校同
士の共同学習では得ることがで
きない成果である。

45分の標準的な1単位授業時間内での展開であったが、Cu-SeeMeとチャットを併用したために、子ども達の意見交換を十分に行わせることができた。

Cu-SeeMeはパーソナルユーズな性格のソフトであるため、学級全体同士の交流よりも本時のように班単位での交流に利用することが本来的な利用の仕方であると確信した。

本校は、校内研究としてコミュニケーション能力を高める国語科の指導について研究を行っている。

インターネットを利用した文字での交流、テレビ会議型の交流のどちらをとっても、日常のコミュニケーション力が問われる場面となった。

的確に物事を伝える力、相手の言葉に対して的確に答える力は、メディアの発達により益々必要な力となるだろう。

教室内の交流、校内の交流、そしてインターネットを利用した交流を通して、子ども達に人と人のネットワークの素晴らしさ、自分自身が広がる感覚を味わわせていきたいと思う。

交流授業

ワンポイントアドバイス

Cu-SeeMe等のテレビ会議型ソフトを利用して国内外と共同授業をする場合、通信状況が回線の混み具合に左右される場合が多い。授業と同じ時間帯でテストを繰り返すことにより、良好な回線状況の時間帯を十分に検討することが大切である。

ネットワーク的な距離が遠いか近いかを常に把握しながら通信実験を繰り返すことが大切である。テレビ会議型のソフトを一般公衆回線を利用して授業する場合は、回線状況に応じて動画から静止画に切り替えて利用すると、音声も明瞭に確保できる。

チャットやCe-SeeMeでのやりとりは、ある程度の慣れが必要である。国語科の短作文指導で取り上げたり、実際に校内LANを利用して筆談をチャットで行うような学習を国語科の作文指導として位置づけたりすることにより、取り立てて時間を設定しなくても子ども達が進んで利用できるようになる。